

第 5 章

重点的に進める取組

5.1 基礎となる取組

(1) 『まちづくり×エネルギー』の一体的な展開

これまでも更新時期を迎える民間建築物などに対して、良好な開発となるよう、様々な取組を通じて誘導・調整してきたところですが、三つの目標を実現するためには、まちづくりとエネルギー施策の総合性・一体性を高めることが重要です。

今後は各取組を強化するとともに取組間の連携を強め、まちづくりとエネルギー施策が相互に補完しあう仕組みを構築し、それをわかりやすく発信し、事業者に対して理解を促します。



図5.1.1 まちづくりとエネルギー施策の一体的な誘導イメージ

そこで、「札幌都心E！まち開発推進制度」の発展、強化を行い、建替更新等の機会を通じて目標の実現につながる取組の一体的な誘導を図ります。

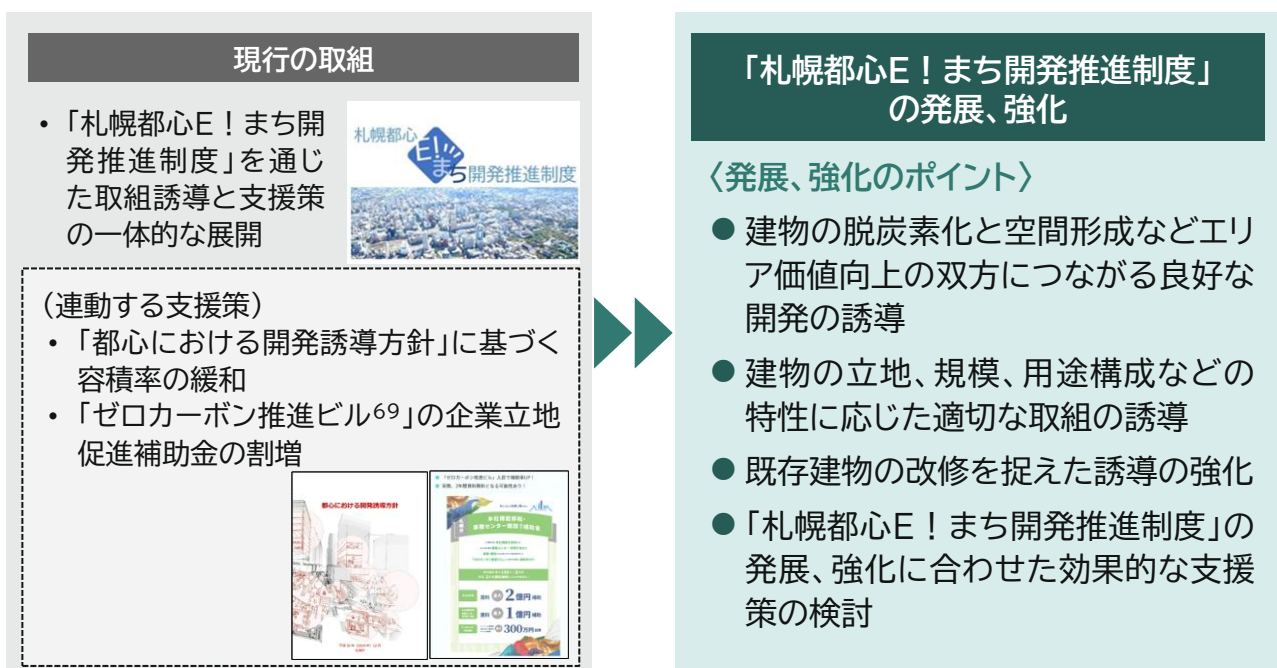


図5.1.2 まちづくりとエネルギー施策が相互に補完し合う仕組みの概略

⁶⁹【ゼロカーボン推進ビル】「札幌都心E！まち開発推進制度」に基づく協議を行ったもので、札幌市が定める要件に適合するビル。

(2) 『札幌らしさ』の強調

都心まちづくりの理念「世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心」を実現するためには、国内外から訪れる人々が他都市にはない固有の価値を感じられるよう、ゆきとの共生やみどりととの調和といった気候風土を生かした街並みや、人々が集い交流し、多様な活動が生まれている風景などに『札幌ならではの魅力』を表出することが重要です。

本計画で考える『札幌らしさ』を「ひと」「ゆき」「みどり」というキーワードで整理し、都心まちづくりの取組を進めるにあたって特に配慮するポイントを以下のとおり示します。

表5.1.1 本計画で配慮すべきポイント

ひと	ゆき	みどり
<p>空間を利用する人・運用する人を中心に考える</p> 	<p>雪や寒さを札幌の魅力・活力とするよう考える</p> 	<p>まちの価値を高めるみどりの充実を考える</p> 
<p>多くのひとをひきつける機能の集積、回遊・滞留を促す環境の形成、持続的にまちのにぎわいを生み出す体制・仕組みの構築など、多くの『ひと』の活動を促進する</p>  <p>(参考)エリアマネジメント組織による、道路空間を活用した人々の滞留を促す場づくり【南1条通社会実験】</p>	<p>雪や氷を生かした街並みや活動の創出、冬季の快適性の向上、積雪寒冷地に適した環境性・強靱性の向上など、世界でも珍しい『ゆき』を生かし、札幌ならではの魅力・活力を発揮する</p>  <p>(参考)建物の省エネ化とエネルギーネットワークのイメージ</p>	<p>良質で豊かなみどりのある空間の創出、木材の積極的な活用、脱炭素社会への取組の推進など、都市と『みどり』が調和した環境都市としての魅力を発揮する</p>  <p>(参考)木材を積極的に活用した建築物【ザ・ロイヤルパークキャンパス札幌大通公園】</p>

なお、札幌市の最上位計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」では、目指すべき都市像として『「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ』と掲げています。

都心まちづくりの取組を通じ、「ひと・ゆき・みどり」を一体と捉え、新たな価値や魅力を創っていくことも意識して進める必要があります。

5.2 場所別の取組

目標実現のため先導的な役割を果たすべき場所の選定にあたっては、特性や開発機運、エリアまちづくりの動向に加え、骨格構造の位置付けと目標ごとの先導・主要エリアを総合的に考慮しました。

これらの要素を踏まえ、計画期間内に着実にまちづくりの進展を図ることで、その効果が周辺や都心全体に波及・連鎖することが見込まれる取組を重点として位置付け、場所別に示します。

〈三つの重点的取組〉

重点1 大通・創世交流拠点とはぐくみの軸周辺

世界が憧れ、市民が誇れる、都市ブランドを確立する新たな象徴空間の創出

重点2 都心まちづくりを先導する二つの交流拠点とネットワーク

目標の実現を先導し、国際競争力をけん引するまちの形成

重点3 二つの展開拠点と展開軸

都心の多様な魅力を高め、個性を生かすエリアまちづくりの展開

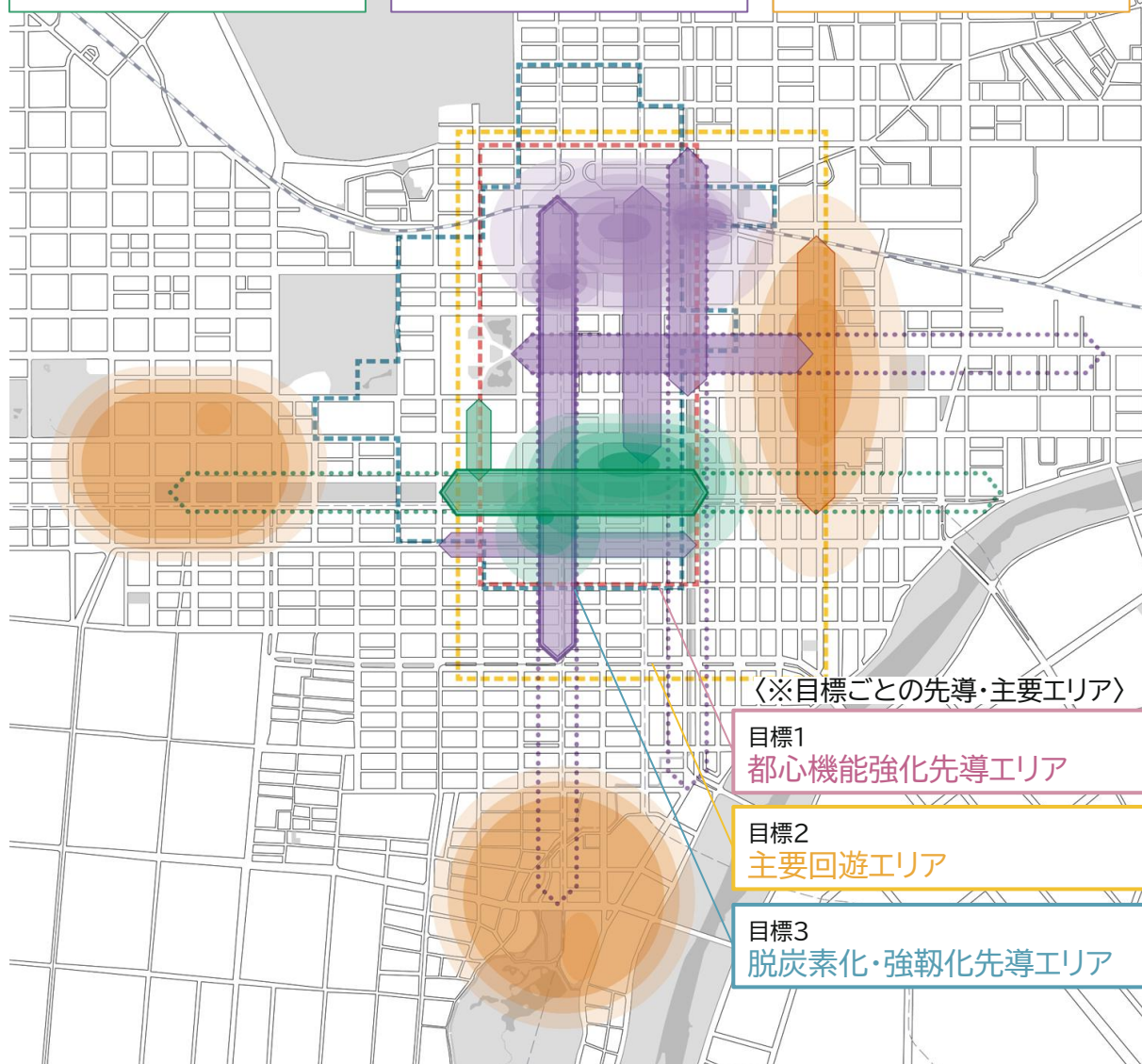


図5.2.1 三つの重点的取組

目標ごとの『先導・主要エリア』について

第4章では、三つの目標ごとに『先導・主要エリア』を示しました。これらは、それぞれの目標を達成するために大事な要素であり、重なり合う場所では各視点を統合し、一体的にアプローチすることが不可欠であることから、重点的に進める場所別の取組を設定する一因となっています。

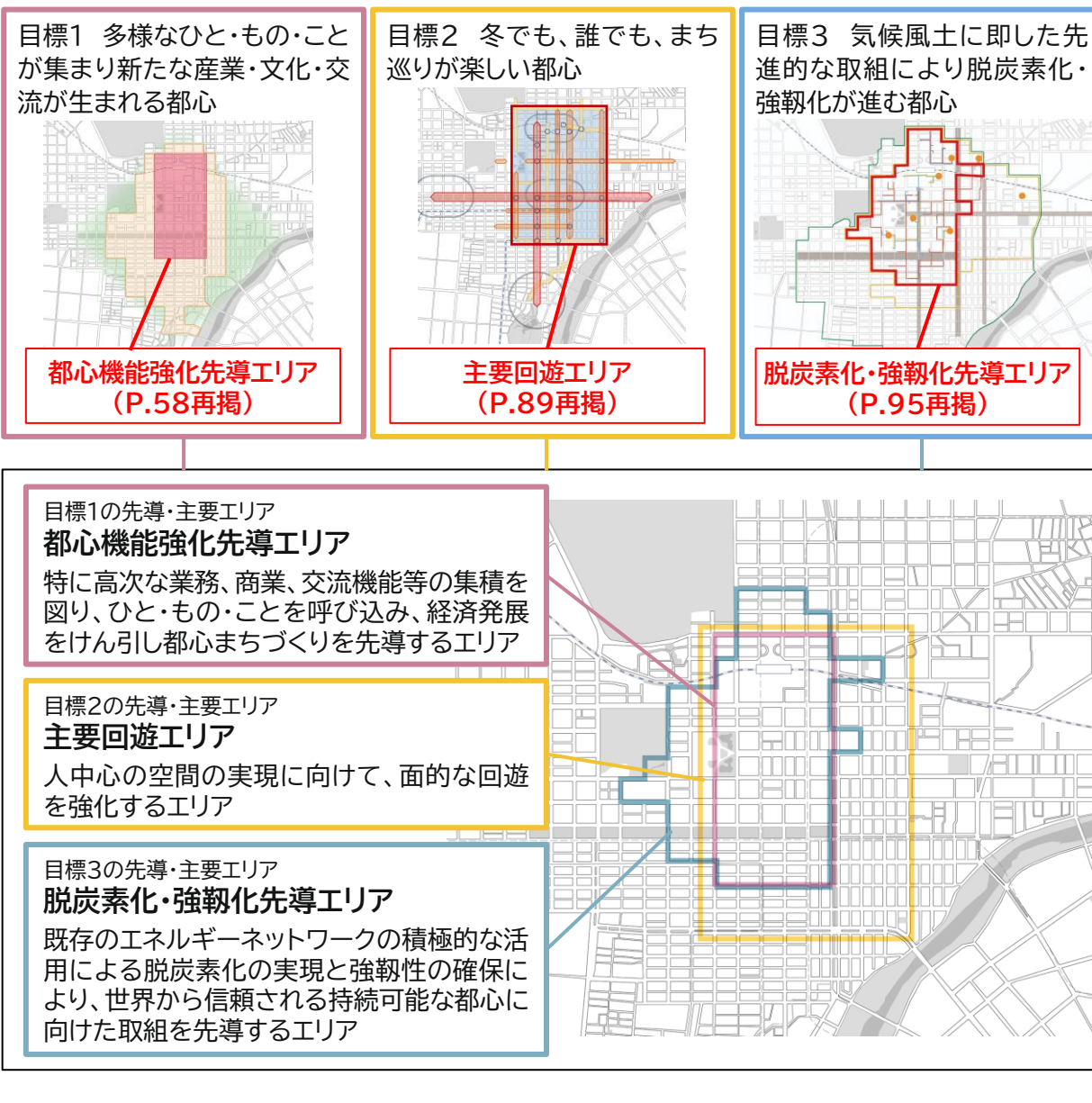
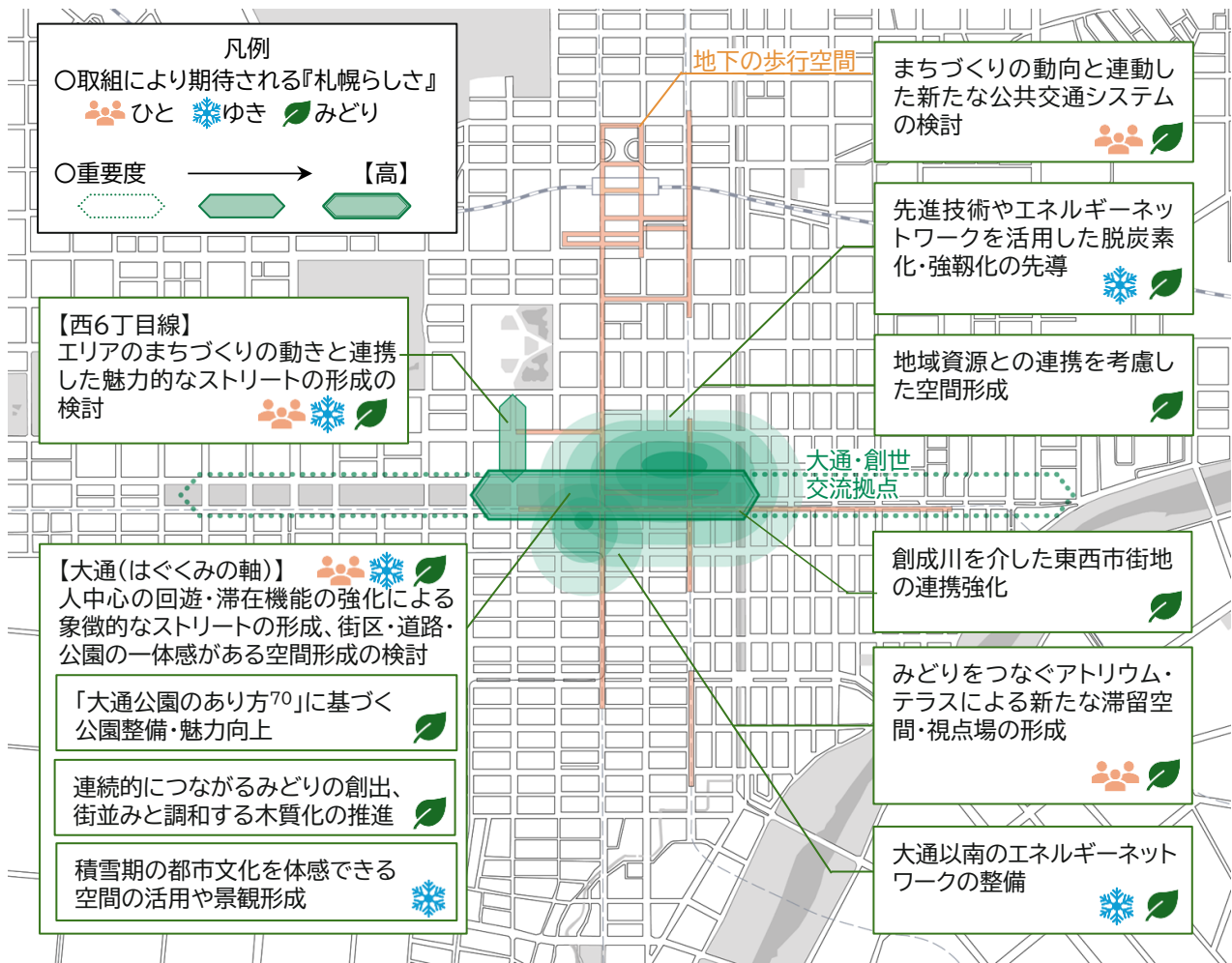


図5.2.2 目標ごとの先導・主要エリア

(1) 重点1 大通・創世交流拠点とはぐくみの軸周辺

世界が憧れ、市民が誇れる、 都市ブランドを確立する新たな象徴空間の創出

大通公園や時計台など札幌を代表する地域資源が集積し、多くの市民や国内外からの来街者が集まるこの場所では、集積する市有地の利活用を図りながら、官民の連鎖的な開発と相互連携によって、街区・道路・公園の一体感がある新たな象徴空間の創出を目指します。あわせて、大通公園を中心とした連続的につながるみどりの創出や、人々が豊かな時間を過ごせる都市文化を醸成していくことで、市民の生活の質の向上や札幌の都市ブランドを確立していきます。



〈今後の進め方〉

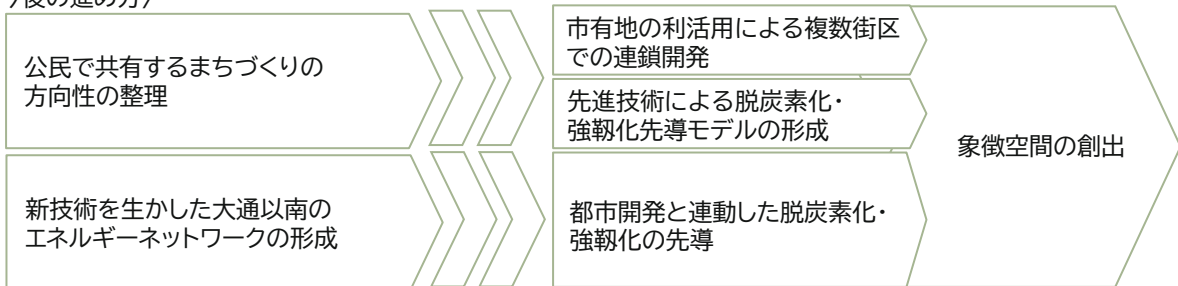


図5.2.3 重点1:大通・創世交流拠点とはぐくみの軸周辺

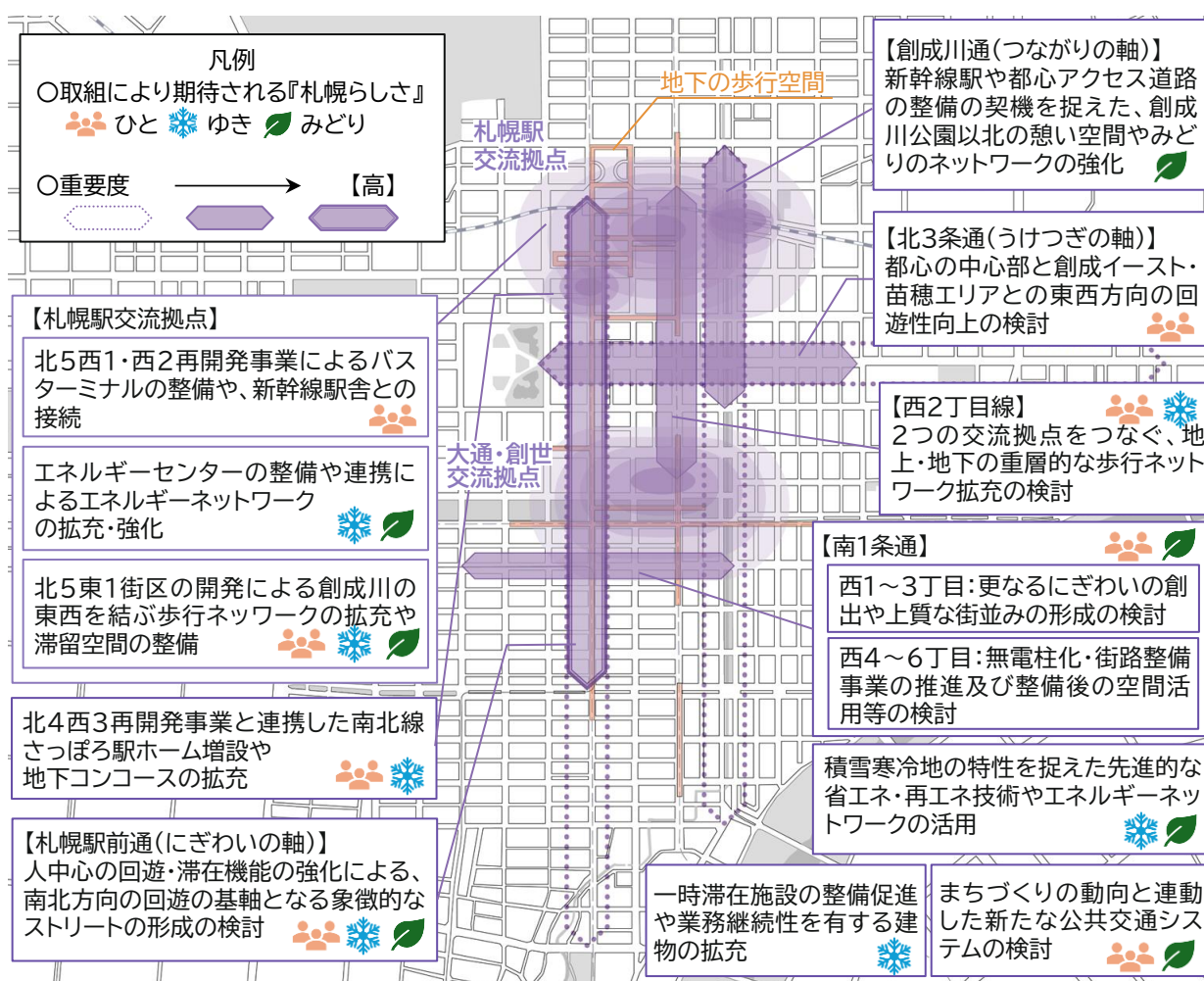
⁷⁰【大通公園のあり方】札幌市が令和7年(2025年)3月に策定した、大通公園の今後について方向性を整理したもの。

(2) 重点2 都心まちづくりを先導する二つの交流拠点とネットワーク

目標の実現を先導し、国際競争力をけん引するまちの形成

現在進行中の都市開発等と連携しながら、エネルギーセンターの整備やエネルギーネットワークの拡充・強化とともに、歩行ネットワークやみどりのネットワークなどの拡充による札幌らしい魅力的な空間形成を進め、三つの目標を一体的に具現化していきます。

また、エリアマネジメントの取組においてもエネルギーや防災など多様なテーマに発展させ、エリア価値を一層高め、その効果を都心全体や他のエリアに波及させていきます。



〈今後の進め方〉

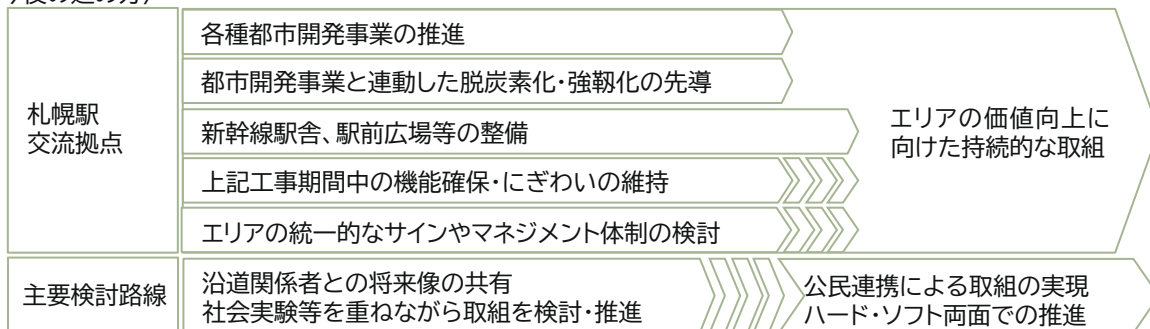


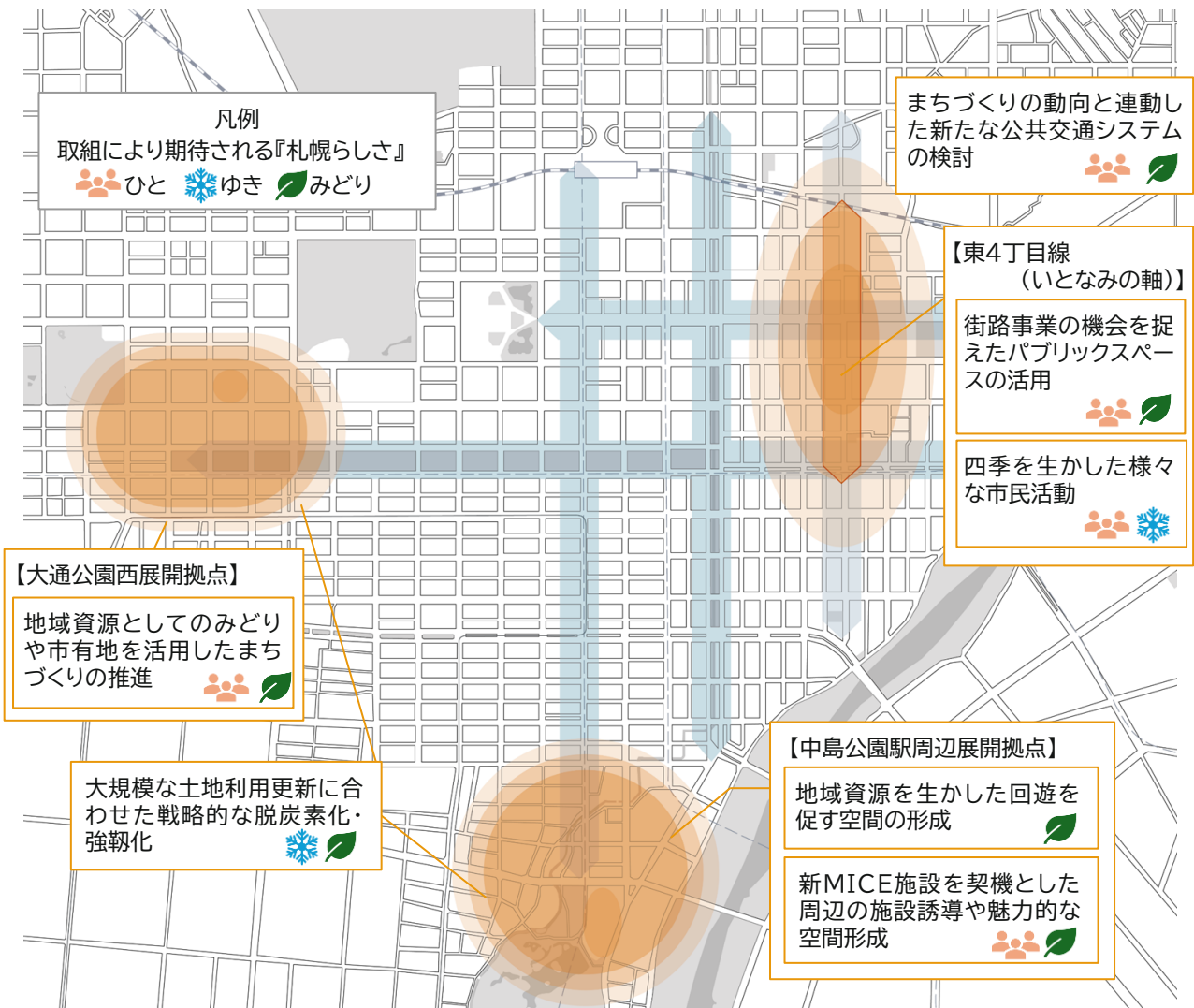
図5.2.4 重点2: 都心まちづくりを先導する二つの交流拠点とネットワーク

(3) 重点3 二つの展開拠点と展開軸

都心の多様な魅力を高め、個性を生かすエリアまちづくりの展開

都心に求められる多様なニーズに応え、都心全体の魅力を厚みのあるものとするため、都心中心部とは異なる特徴・個性を発揮し、地域資源を生かしたエリアまちづくりを重点的に進めていきます。

特性に応じたまちづくりと脱炭素化を一体的・戦略的に進めながら、拠点・基軸としての存在感を高め、独自性のある魅力的な目的地となり、都心全体の回遊を促します。



〈今後の進め方〉

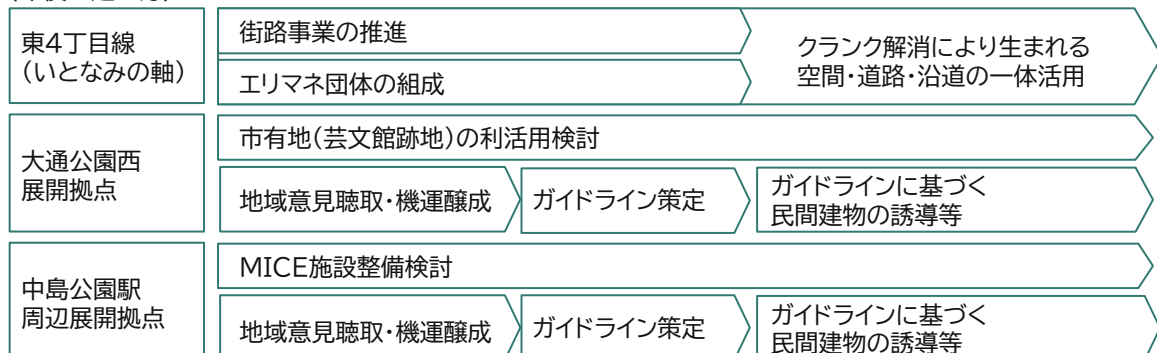


図5.2.5 重点3:二つの展開拠点と展開軸

5.3 重視する進め方

取組を進める際は、敷地単体で考えるのではなく、公共と民間の取組が共鳴し、相乗効果をもたらすことが求められます。取組を進める際のポイントを示します。



図5.3.1 重視する進め方のイメージ

エリアまちづくり

地域住民や企業が主体となり、エリアの将来像の共有や、パブリックスペースの積極的な利活用、エリア特有の課題への対応等の取組を通じて、エリアの個性や魅力を高め、集客力を強化していくことが都心全体で望まれます。

特に、建物の更新等を検討する際は、道路やエネルギーなど既存の都市基盤や地域資源を含めた特性を踏まえ、周辺の地権者や関係者と協働し、中長期的なエリア価値の向上を見据えて進めることが重要です。また、このようなエリアまちづくりを推進するため、更なる支援策についても検討します。

社会実験と市民議論

パブリックスペースを新たに創出する場合は、整備後の運用体制を併せて検討するとともに、市民・来街者に長く親しまれる空間となるよう、市民や周辺地権者と合意形成を図りながら、利用イメージを明確にすることが重要です。

社会実験は、効果・課題の検証を通じたより良い空間の検討、運用体制の構築、関係者との協働を通じた合意形成などにつながる有効な手法であり、積極的に推進します。

既存ストック⁷¹の活用

既存建物は、適切に改修することにより外観の保全、環境性や防災性、快適性の向上など建物の価値を高めることが可能です。

既存建物をひとつの地域資源と捉え、道路やエネルギーなどの都市基盤や周辺の地域資源を生かしながら、課題や目的に応じて、既存資源の価値を高める改修などの手法について検討することを促し、規模等に応じた、きめ細かく機動的な対応や支援を検討します。

⁷¹ 【既存ストック】これまで整備されてきた道路、公園等のインフラや学校、住宅等の建築物など。